（第三種郵便物認可）

11月18日は建築設備士の日

誰もが快適に使えるトイレ空間へ

多様化する課題にどう向き合うか

建築設備技術者協会は、国土交通省から建築設備士資格者を定める告示が交付された11月18日を「建築設備士の日」とし、毎年この時期に、設備の専門技術者である「建築設備士」を広く知ってもらうための記念行事を開いている。環境問題や省エネルギー化などの社会課題への対応が建築にとって重要性を増す中で、建築設備士に課せられた役割や期待はより大きくなっている。本特集では、建築設備士のさらなる活用に向けて、設計事務所ゴンドラの小林純子代表、建築設備技術者協会の小瀬博之会長（東洋大学総合情報学部教授）、熊谷智夫副会長（大成建設エグゼクティブ・フェロー設計本部副本部長）の3氏に「誰もが使いやすいトイレをめざす建築設備技術―トイレ設計の最前線から考える建築設備士の役割―」をテーマに議論してもらった。


設計事務所ゴンドラ代表
小林 純子氏


建築設備技術者協会副会長
熊谷 智夫氏


建築設備技術者協会会長
小瀬 博之氏

生活・価値観写す鏡 誰もが快適な空間へ

小瀬　今回のテーマは「誰もが使いやすいトイレを支える建築設備技術―トイレ設計の最前線から考える建築設備士の役割―」です。ゲストに、設計事務所ゴンドラの小林純子代表をお迎えしました。

小林　元々は設計事務所で建築設計の仕事に就いていました。独立の準備をしていた頃、瀬戸大橋の開通に合わせて建てられるゴールドタワーの付属施設の設計に加わりました。それは観光需要の急増が期待される中、観光客を呼び込む目玉として5億円を投じた3階建ての公共トイレ（チャームステーション）で、そこが本格的出発点です。

バブル期の当時、トイレは「汚い、暗い、臭い、怖い」場所と指摘されていました。この「4K」に対して、松屋銀座店などの商業施設や、国鉄から民営化したJR等ほとトイレを変化するために改修する動きが出ていました。

トイレは、人々の暮らしや潮流の変化を映し出す鏡です。この頃のトイレ改善の動きはインバウンドにも取り上げられ「持ってきた」との人々の期待に応えるべく実感がありました。以後、この建築設計を志していた私にとって、その二部の専門家になることを意識し勉強に励みありました。社会の風向きが変わる中、快適に利用できるトイレの可能性の追求は面白そうでもありました。

小瀬　私自身、小学生の頃は外出先でトイレを使うことに抵抗があり、特に大便器の使用は避けていました。小林代表には共トイレを設計する上で、どのような点を大切にされていますか。

小林　場所を問わず、誰もが安心して利用できる清潔な空間であることです。トイレ環境は体制投資期間にありますが、施設や地域による差異は依然として残っています。今で同水準に満足感を保つのは難しくても、それぞれが抱える課題に対応しながら、少しずつ改善していかなければならません。

もう一つ重要なのが、建築計画を策定する段階でトイレに十分な面積を割り当てることです。建物自体が増えるとしても、トイレの広さや配置が簡単には変えられません。将来の利用状況も見据え、あらじめスペースを確保しておけていました。小林代表は共トイレを設計する上で、どのような点を大切にされていますか。

小林　場所を問わず、誰もが安心して利用できる清潔な空間であることです。トイレ環境は体制投資期間にありますが、施設や地域による差異は依然として残っています。今で同水準に満足感を保つのは難しくても、それぞれが抱える課題に対応しながら、少しずつ改善していかなければならません。

もう一つ重要なのが、建築計画を策定する段階でトイレに十分な面積を割り当てることです。建物自体が増えるとしても、トイレの広さや配置が簡単には変えられません。将来の利用状況も見据え、あらじめスペースを確保しておくことが必要です。トイレ待ちは、将来のトイレの作り方まで見据えたスペース取りをしてほしいと思います。

男女待ち時間平等に 限られた空間生かす

小瀬　トイレは衛生やエレベーターなどが集まるコア付近に設置されることが多く、給排水管生設備の納まりを考慮すると建築全体の面積拡張には制約が付きまといます。限られた空間で、男女間の適切なバランスを図るのは容易ではありません。

昨今、女性用トイレの器数が男性よりも多ないことが大きな話題となっています。とはいえ、それを解消するため一男性用トイレを縮小するといった対応では、根本的な問題解決に至りません。

小林　協議会の設立を務める中で、男女のトイレスペースの配分などが複雑に絡み合う難しい問題だと実感しました。最近は建主も問題視するようになり、設計事務所に対しトイレを使うことに自体に抵抗があり、特に大便器の使用は避けるケースも見受けます。なら、新築時に拡大できません。なら、新築時生活環境を踏まえた対応が必要です。

小瀬　配管を上空の継手で横方向に回して、天井裏下に落とし込んだりして対応しました。意匠性や使いやすさ追求し思います。

小林　建築家が設備に精通していれば、その苦労はしなくて済むと思います。

熊谷　適切な設備機器の基準にどう位置付けるかや、一般トイレとのスペース配分のバランスを再検討していくべきだと考えます。利用頻度の高低だけで減らしてよいと判断するのは危険です。モアルとなり、隣り合う個室を避けて選ぶケースも見られます。

小瀬　今回のテーマは「誰もが使いやすいトイレを支える建築設備技術―トイレ設計の最前線から考える建築設備士の役割―」です。ゲストに、設計事務所ゴンドラの小林純子代表をお迎えしました。

小林純子代表は、国土交通省が2025年11月に設置し、私も一委員として参画した「トイレ設置数の基準と適用のあり方に関する協議会」の座長を務められ、日本トイレ協会会長としても活動されています。まずは、トイレの計画・設計に携わるようになった経緯をお聞かせください。

小林　元々は設計事務所で建築設計の仕事に就いていました。独立の準備をしていた頃、瀬戸大橋の開通に合わせて建てられるゴールドタワーの付属施設の設計に加わりました。それは観光需要の急増が期待される中、観光客を呼び込む目玉として5億円を投じた3階建ての公共トイレ（チャームステーション）で、そこが本格的出発点です。

バブル期の当時、トイレは「汚い、暗い、臭い、怖い」場所と指摘されていました。この「4K」に対して、松屋銀座店などの商業施設や、国鉄から民営化したJR等ほとトイレを変化するために改修する動きが出ていました。

トイレは、人々の暮らしや潮流の変化を映し出す鏡です。この頃のトイレ改善の動きはインバウンドにも取り上げられ「持ってきた」との人々の期待に応えるべく実感がありました。以後、この建築設計を志していた私にとって、その二部の専門家になることを意識し勉強に励みありました。社会の風向きが変わる中、快適に利用できるトイレの可能性の追求は面白そうでもありました。

小瀬　私自身、小学生の頃は外出先でトイレを使うことに抵抗があり、特に大便器の使用は避けていました。小林代表には共トイレを設計する上で、どのような点を大切にされていますか。

小林　場所を問わず、誰もが安心して利用できる清潔な空間であることです。トイレ環境は体制投資期間にありますが、施設や地域による差異は依然として残っています。今で同水準に満足感を保つのは難しくても、それぞれが抱える課題に対応しながら、少しずつ改善していかなければならません。

もう一つ重要なのが、建築計画を策定する段階でトイレに十分な面積を割り当てることです。建物自体が増えるとしても、トイレの広さや配置が簡単には変えられません。将来の利用状況も見据え、あらじめスペースを確保しておくことが必要です。トイレ待ちは、将来のトイレの作り方まで見据えたスペース取りをしてほしいと思います。

設計・意匠・設備の総合力を発揮

小瀬　トイレは衛生やエレベーターなどが集まるコア付近に設置されることが多く、給排水管生設備の納まりを考慮すると建築全体の面積拡張には制約が付きまといます。限られた空間で、男女間の適切なバランスを図るのは容易ではありません。

昨今、女性用トイレの器数が男性よりも多ないことが大きな話題となっています。とはいえ、それを解消するため一男性用トイレを縮小するといった対応では、根本的な問題解決に至りません。

小林　協議会の設立を務める中で、男女のトイレスペースの配分などが複雑に絡み合う難しい問題だと実感しました。最近は建主も問題視するようになり、設計事務所に対しトイレを使うことに自体に抵抗があり、特に大便器の使用は避けるケースも見受けます。なら、新築時生活環境を踏まえた対応が必要です。

小瀬　トイレは衛生やエレベーターなどが集まるコア付近に設置されることが多く、給排水管生設備の納まりを考慮すると建築全体の面積拡張には制約が付きまといます。限られた空間で、男女間の適切なバランスを図るのは容易ではありません。

昨今、女性用トイレの器数が男性よりも多ないことが大きな話題となっています。とはいえ、それを解消するため一男性用トイレを縮小するといった対応では、根本的な問題解決に至りません。

小林　協議会の設立を務める中で、男女のトイレスペースの配分などが複雑に絡み合う難しい問題だと実感しました。最近は建主も問題視するようになり、設計事務所に対しトイレを使うことに自体に抵抗があり、特に大便器の使用は避けるケースも見受けます。なら、新築時生活環境を踏まえた対応が必要です。

配管技術で快適化に 設備能力が質を左右

熊谷　小林代表が手掛けたトイレが「使いやすい」と評価される背景には、設計段階から施工段階まで一貫できるよう、新たな体験出会える工夫が随所に施されています。新潟県内の道の駅の「パティオいがた」では、トイレ空間に中庭を設けるとともに、小便器を壁沿いに並べるのではなく、基ずの向きに振り分けて配置することで、ゆとりある空間を演出しています。

小林　ありがとうございます。ただ、利用者の実感や心理面まで踏み込んだ評価の仕組みはまだ確立されていません。

小瀬　今後は、災害時や大規模イベントへの対応、オーバーツーリズムなど、社会の動向と並行してトイレ関連の課題も多様化していきます。基礎の作り方として明るさの持ち時間を平等にすることや、災害対応の考え方などについて示されましたが、今後様なニーズに対する解決策にはまだまだ課題があります。

小林　その一つですが、トイレに関する情報を発信する際に、多機能トイレは空室になっていることも関わらず、あまり利用されていません。今、さまざまな新しい利用状況を調べていますが、多機能トイレはほとんど使われていないように見受けました。ただ、利用機会が少ないからといって、必要性を低いとは思いません。

熊谷　適切な設備機器の基準にどう位置付けるかや、一般トイレとのスペース配分のバランスを再検討していくべきだと考えます。利用頻度の高低だけで減らしてよいと判断するのは危険です。モアルとなり、隣り合う個室を避けて選ぶケースも見られます。

小瀬　今後は、災害時や大規模イベントへの対応、オーバーツーリズムなど、社会の動向と並行してトイレ関連の課題も多様化していきます。基礎の作り方として明るさの持ち時間を平等にすることや、災害対応の考え方などについて示されましたが、今後様なニーズに対する解決策にはまだまだ課題があります。

多様なニーズに対応 設計後も改善と検証

小瀬　今後は、災害時や大規模イベントへの対応、オーバーツーリズムなど、社会の動向と並行してトイレ関連の課題も多様化していきます。基礎の作り方として明るさの持ち時間を平等にすることや、災害対応の考え方などについて示されましたが、今後様なニーズに対する解決策にはまだまだ課題があります。

小林　その一つですが、トイレに関する情報を発信する際に、多機能トイレは空室になっていることも関わらず、あまり利用されていません。今、さまざまな新しい利用状況を調べていますが、多機能トイレはほとんど使われていないように見受けました。ただ、利用機会が少ないからといって、必要性を低いとは思いません。

熊谷　適切な設備機器の基準にどう位置付けるかや、一般トイレとのスペース配分のバランスを再検討していくべきだと考えます。利用頻度の高低だけで減らしてよいと判断するのは危険です。モアルとなり、隣り合う個室を避けて選ぶケースも見られます。

小瀬　今回のテーマは「誰もが使いやすいトイレを支える建築設備技術―トイレ設計の最前線から考える建築設備士の役割―」です。ゲストに、設計事務所ゴンドラの小林純子代表をお迎えしました。

小林純子代表は、国土交通省が2025年11月に設置し、私も一委員として参画した「トイレ設置数の基準と適用のあり方に関する協議会」の座長を務められ、日本トイレ協会会長としても活動されています。まずは、トイレの計画・設計に携わるようになった経緯をお聞かせください。

小林　元々は設計事務所で建築設計の仕事に就いていました。独立の準備をしていた頃、瀬戸大橋の開通に合わせて建てられるゴールドタワーの付属施設の設計に加わりました。それは観光需要の急増が期待される中、観光客を呼び込む目玉として5億円を投じた3階建ての公共トイレ（チャームステーション）で、そこが本格的出発点です。

バブル期の当時、トイレは「汚い、暗い、臭い、怖い」場所と指摘されていました。この「4K」に対して、松屋銀座店などの商業施設や、国鉄から民営化したJR等ほとトイレを変化するために改修する動きが出ていました。

トイレは、人々の暮らしや潮流の変化を映し出す鏡です。この頃のトイレ改善の動きはインバウンドにも取り上げられ「持ってきた」との人々の期待に応えるべく実感がありました。以後、この建築設計を志していた私にとって、その二部の専門家になることを意識し勉強に励みありました。社会の風向きが変わる中、快適に利用できるトイレの可能性の追求は面白そうでもありました。

小瀬　私自身、小学生の頃は外出先でトイレを使うことに抵抗があり、特に大便器の使用は避



希望ある確かな人生設計描ける仕事に

寄稿



国土交通大臣
井林 辰憲

建築設備士の日を迎えるにあたり、建築設備の高度化と質な建築ストックの形成にご尽力いただいている建築設備士の皆さまに、心より敬意を表します。

建築物は、われわれの生活や経済活動の基盤となる役割を果たしております。空調設備、給排水設備、電気設備をはじめとする建築設備が適切に計画・設計され、維持管理されることで、初めて安全で快適な暮らしと活力ある経済活動が実現されます。

建築設備士は、1985年の制度創設以来、建築設備に関する高度な専門知識と技術を有する専門家として、建築物の質向上や安全・安心の確保に大きく貢献してこられました。近年は、技術革新の進展や社会ニーズの多様化に伴い、建築設備の高度化・複雑化が急速に進んでおり、その専門性に対する期待はますます高まっています。

とりわけ近年では、2050年カーボンニュートラルの実現に向けて、建築物のさらなるエネルギー化への対応は不可欠です。国土交通省では、本年7月に建築物省エネ法を改正し、建築設備士が、ガイドラインの公表後、確実に「なぜ省エネ性能は満足されるのか」について、建築主に対して適切に説明することが求められました。

これまで、現場で働く方々が「この仕事に誇りをもって働ける」と感じられる環境づくりを進めてきましたが、建築設備士の皆さまが、今後も、社会資本整備審議会の答申にも示されたように、技術革新の進展や社会情勢の変化に対応した「建築分野の中長期的な人材確保の在り方」について、引き続き、関係者の皆さまとともに検討を進めてまいります。

また同じく7月には建築士法の改正も行われました。これにより、建築設備士に関しても、より多くの方が、建築設備士として活躍しやすくなるよう、受験資格の緩和や、登録講習の要件に関する見直しなどを行うこととなりました。

建築設備士の皆さまにおかれましては、建築設備士としての誇りと責任を持って、引き続き、建築物の安全・安心、そして豊かな暮らしの実現に向けて、ご尽力いただきますようお願いいたします。

一般社団法人
建築設備技術者協会
会長 小瀬博之
〒107-0052 東京都港区赤坂2−21−3（レドンドビル5階）
電話(03)5408−0063
ホームページ https://www.jabmee.or.jp

一般社団法人
電気設備学会
会長 枡川重男
〒103-0012 東京都中央区日本橋堀留町1−9−6（堀留ゼネラルビル3階）
電話(03)6206−2720 FAX(03)6206−2730

一般社団法人
日本設備設計事務所協会連合会
会長 高木俊幸
〒103-0014 東京都中央区日本橋蛎殻町1−18−2（中野オイスタービル）
電話(03)5276−1381
ホームページ https://www.jafmec.or.jp

一般社団法人
建築設備綜合協会
会長 村上公哉
〒108-0014 東京都港区芝5−26−20（建築会館6階）
電話(03)5445−4266
ホームページ http://abee.or.jp

一般社団法人
大阪府設備設計事務所協会
会長 和気光則
〒542-0083 大阪市中央区東心斎橋1−3−10（長堀堂ビル）
電話(06)6245−9487
ホームページ https://www.oea.or.jp

一般社団法人
日本空調衛生工事業協会
会長 小島和人
〒104-0041 東京都中央区新富2−2−7（空衛会館3階）
電話(03)3553−6431(代)

一般社団法人
日本電設工業協会
会長 文挟誠一
〒107-8381 東京都港区元赤坂1−7−8
電話(03)5413−2161(代)

一般社団法人
日本設備設計事務所協会連合会
会長 高木俊幸
〒103-0014 東京都中央区日本橋蛎殻町1−18−2（中野オイスタービル）
電話(03)5276−1381
ホームページ https://www.jafmec.or.jp

一般社団法人
電気設備学会
会長 枡川重男
〒103-0012 東京都中央区日本橋堀留町1−9−6（堀留ゼネラルビル3階）
電話(03)6206−2720 FAX(03)6206−2730

一般社団法人
東京空調衛生工事会
会長 谷口昌伸
〒104-0041 東京都中央区新富2−2−7（空衛会館）
電話(03)3553−6711(代)

一般社団法人
東京電業協会
会長 門間俊道
〒107-0051 東京都港区元赤坂1−7−8
電話(03)3403−5181(代)

一般社団法人
東京都設備設計事務所協会
会長 武井一義
〒102-0072 東京都千代田区飯田橋1−5−5（協和ビル3階）
電話(03)5276−1400
ホームページ http://www.met.gr.jp

一般社団法人
建築設備綜合協会
会長 村上公哉
〒108-0014 東京都港区芝5−26−20（建築会館6階）
電話(03)5445−4266
ホームページ http://abee.or.jp

一般社団法人
愛知県空調衛生工事業協会
会長 関林憲之
名古屋市中区錦1−7−31（山田ビル3階）
電話(052)253−7837
ホームページ http://www.aikuen.com/

一般社団法人
大阪空気調和衛生工業協会
会長 畑中勝美
大阪市中央区安土町1−7−20（新トヤマビル3階）
電話(06)6271−0175(代表) FAX(06)6271−0177

一般社団法人
大阪電業協会
会長 上坂隆勇
〒530-0055 大阪市北区野崎町9−8（永楽ニッセイビル5階）
電話(06)6363−4077 FAX(06)6363−4079
ホームページ https://www.osdenkyo.or.jp/

株式会社 朝日工業社
代表取締役社長 高須康有
本社・本店 東京都港区浜松町一丁目25番7号（大門第一電協ビル）
〒105-8574 電話(03)3434−1511

株式会社 関電工
代表取締役社長 田母神博文
東京都港区芝浦四丁目8番33号
〒108-8133 電話(03)5476−2111

きんでん
ひとりひとりが、未来を灯す。

株式会社クリマテック
代表取締役社長 前原邦彦
東京都千代田区神田小川町三丁目24番5号（神田小川町三丁目ビル）
〒101-0052 電話(03)5577−6150
http://www.climate-tec.com/
いいものを、心を込めてつくります

斎久工業株式会社
代表取締役社長 柏葉浩一
本社 東京都千代田区内神田一丁目2番2号（内神田一丁目ビルディング）
〒101-0047 電話(03)3233−4711(代)

三機工業株式会社
代表取締役社長 名古屋和宏
〒100-8241 東京都中央区日本橋小網町19−1
人に快適を。地球に最適を。

株式会社 三冷社
代表取締役社長 小沼智行
本社 東京都中央区日本橋本町四丁目12番20号（三冷ビル）
電話(03)3241−5111(代表)

SANKEN
空気調和・冷凍冷蔵・給排水衛生設計施工
株式会社 三建設備工業社
代表取締役社長 松井栄一
東京都中央区日本橋本町4−6（日本橋本町ビル5階）
〒103-0023 電話(03)3241−8651(代)

新日本空調株式会社
代表取締役社長 廣島尊則
本社 東京都中央区日本橋小網町19−12（三井住友銀行小網町ビル）
〒103-8430 電話(03)3639−1111(代)

SHINRYO
空気と水の環境創造企業
新菱冷熱工業株式会社
代表取締役社長 加賀美猛
本社 東京都新宿区西新宿三丁目7番1号（新宿パークタワー）
〒163-1030 電話(03)3348−7111(代)

須賀工業株式会社
代表取締役社長 福原保豊
空気と水の環境エンジニア

株式会社エクノ菱和
代表取締役社長 加藤雅也
空気と水のテクノロジー
本社 東京都港区芝浦三−四−五
〒108-8223 電話(03)3455−1111(代)

TMES株式会社
代表取締役社長 横手敏一
本社 東京都港区芝浦三−四−五
〒108-8223 電話(03)3455−1111(代)

高砂熱学工業株式会社
代表取締役社長 小島和人
環境ソリューションパートナー
本社 東京都新宿区西新宿六−一四−一
〒163-0807 電話(03)3344−1111(代)

東光電気工事株式会社
代表取締役社長 加藤雅也
本社 東京都千代田区西神田三−五−一
〒101-0065 電話(03)3234−1111(代)

東洋熱工業株式会社
代表取締役社長 谷口昌伸
まわれ、空気、まわれ、社会。
本社 東京都港区芝浦一−一−一
〒108-0023 電話(03)5441−7111(代)
URL https://www.toyo-eng.co.jp

中央電気工事株式会社
代表取締役社長 加藤大策
心をつなぐ、明日を照らす。
本社 名古屋市中区栄四−一六−一二五
〒460-0008 電話(052)251−2111(代)

川北電気工業株式会社
取締役社長 大津正己
本社 名古屋市中区栄四−一六−一二五
〒460-0008 電話(052)251−2111(代)

日本電設工業株式会社
代表取締役社長 安田一成
本店 東京都港区芝浦一−一−一
電話(03)3451−1111(代)

トーエネック
代表取締役社長 滝本嗣久
名古屋市中区栄一−一三−一三
〒460-8430 電話(052)201−4411(代)

日比谷総合設備株式会社
総合エンジニアリングサービス
代表取締役社長 中北英孝
東京都千代田区内幸町一−一−五
〒100-8555 電話(03)3595−8111(代)

株式会社 トーホー設備設計
代表取締役 鶴田明
代表取締役 伊集院宏祐
〒812-0016 福岡市博多区博多駅東3丁目19−22
TEL(092)471−1557(代) FAX(092)474−8305
ホームページURL https://tohosetsubi.jp/

東畑建築事務所
TOHATA ARCHITECTS & ENGINEERS, INC.
代表取締役社長 田嶋慎也
米井 寛 Yutaka Yonei President, Representative Director

株式会社 大建設計
東京・大阪・名古屋・九州・札幌・東北・広島・北九州・沖縄
www.daiken-sekkei.co.jp

株式会社 産研設計
代表取締役会長 藤井 修
代表取締役社長 船津 浩
本社 福岡市博多区上川端町12−20（ぶどう博多ビル6階）
電話(092)263−6575
FAX(092)263−5713
事務所 東京・広島・沖縄

株式会社 エスティ設計
Design by Sustainable Technology
代表取締役社長 庄司雅之
〒810-0074 福岡市中央区大手門2丁目3−1（HTCソルテラ大手門ビル9F）
電話(092)771−9194
ISO9001認証取得 http://www.sti-p.co.jp/

AZUSA SEKKEI
梓設計 代表取締役社長 有吉匡
https://www.azusasekkei.co.jp

よりよい未来社会を建築設備で創造する
総コン
株式会社総合設備コンサルタント
代表取締役社長 砂川直也
https://www.socon.co.jp/

株式会社 総合設備計画
代表取締役会長 中島一則
代表取締役社長 小松敬
本社 〒116-0014 東京都荒川区東日暮里4−22−2
電話(03)3805−6623 FAX(03)3805−6643
事務所 東北・札幌・名古屋・大阪・九州

株式会社 山下設計
YAMASHITA SEKKEI INC.
ARCHITECTS, ENGINEERS & CONSULTANTS.
代表取締役社長 藤田秀夫
東京都中央区日本橋小網町9-1 TEL:03-3249-1555

株式会社 森村設計
PTM
代表取締役社長 森村剛
〒108-0071 東京都港区白金台3−2−10
電話(03)5421−7141 FAX(03)5447−0173

松田平田設計
MHS
代表取締役社長 江本正和
https://mhs.co.jp

株式会社ピーエーシー
代表取締役 武井一義
本社 東京都台東区浅草橋4−2−2
電話(03)5809−2630(代)
支所 仙台
URL http://www.pac-tech.co.jp

NIHON SEKKEI
日本設計 代表取締役社長 篠崎淳

地球にやさしい環境を創造する…
有限会社 システムプラン
代表取締役 森良一
〒810-0012 福岡市中央区白金2−11−9 CR福岡ビル7階
電話(092)751−0036 FAX(092)715−0061